

平成元年度

帰国研修員フォローアップチーム報告書

■ 公衆衛生技術者コース ■

平成2年3月

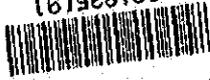
国際協力事業団

沖縄国際センター



沖縄セ
J R
90 - 3

1081835191



JICA LIBRARY

21072

国際協力事業団

21072

[インドネシア]



保健省伝染病防圧・環境保健局 帰国研修員3名
(Mr. Supriyanto, Ms. Siti Zubaidah, Mr. Achmad Isfarain)
との面談



同媒介動物伝染病課研究室



ジャカルタ市特別区薬品食品品質試験所 帰国研修員
Ms. Rusiati Sumapradja (中央の女性)



保健省薬品食品品質管理試験所



同 バリ支局

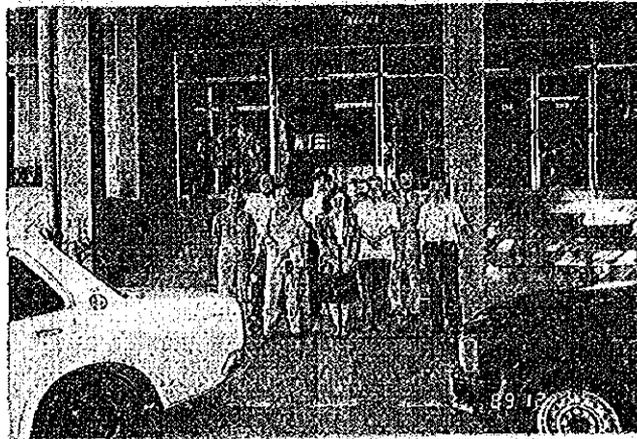
[タ イ]



保健省伝染病予防局 帰国研修員
Dr. Plyyok Sagarasaeranee

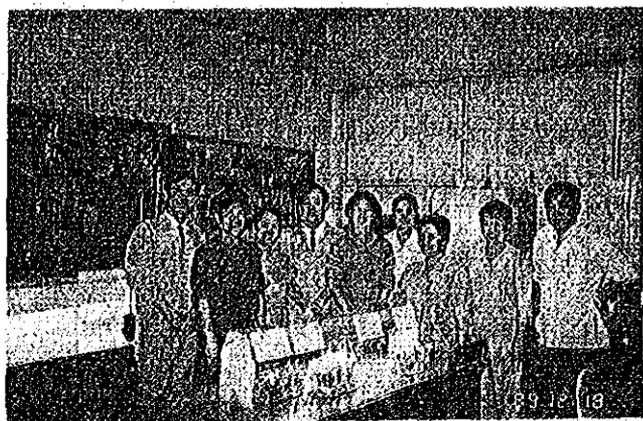


同第10地区(チェンマイ)結核センター 帰国研修員
Ms. Piyada Sae-ko (中央の女性)
及び上司との面談



環境庁 調査研究課長
Ms. Monthip T. Tabucanon 及び
JICA専門家 大田、廣中、阿部の各氏と

[フィリピン]



保健省調査研究局 帰国研修員
Ms. Teresita D. Loyola
(右から4人目) 他



カローカン市保健局局长
Dr. Guillermo L. Papa
他との面談



マカテ市保健局公衆衛生試験室



帰国研修員他との懇親会

は　じ　め　に

この報告書は国際協力事業団が実施した集団研修に参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、帰国研修員の所属機関等を訪問し、現地での諸問題に関する指導並びにニーズ等の調査を行うため、平成元年12月4日から12月20日までの17日間、インドネシア、タイ及びフィリピンの3か国に派遣した調査チームの業務報告書である。

本報告書により、当該分野における各国の実情、帰国研修員の活動状況、帰国研修員が抱えている諸問題及び研修にかかる要望事項等について関係各位のさらに深い理解をいただき、今後の研修コースの改善に資すれば幸いである。

なお、本件実施のためにご協力を賜った外務省、並びに現地において数々のご指導とご協力を賜った在外公館及び関係機関の皆様に深甚なる謝意を表する次第である。

平成2年3月

国際協力事業団
沖縄国際センター
所長事務代理 大城俊雄

目 次

はじめに

写真

目次

I 派遣チームの概要	1
1. 派遣目的	1
2. 派遣国	1
3. 団員構成	1
4. 調査内容	1
5. 調査方法	1
6. 調査日程	2
7. 主要面談者	4
II フォローアップ調査結果	8
1. インドネシア	8
2. タイ	11
3. フィリピン	15
III 帰国研修員に対する質問表の集計結果	18
IV まとめ	24
V 提言	25
VI 資料	27
1. 国別研修員受入実績表	27
2. 今回訪問対象国帰国研修員リスト	28
3. 各国関係機関機構図	31
4. 質問表(様式)	37
5. 各国訪問機関宛英文所見(例)	39

公衆衛生技術者コース フォローアップチーム報告書

I. 派遣チームの概要

1. 派遣目的

公衆衛生技術者コース（昭和58～昭和63年度）に参加した研修員の内、下記3ヶ国の帰国研修員及びその所属先並びに関連機関を訪問し、各国での活動状況及び各国公衆衛生部門の状況を把握し、併せて当該国の本コースへの要望を調査することによって今後の研修内容の策定・コース運営に資することを目的とする。

2. 派遣国

インドネシア、タイ及びフィリピン 計3ヶ国

3. 団員構成

本コースの研修受入機関である沖縄県公衆衛生研究所より3名、沖縄国際センターより1名の計4名で構成された。

担当分野	氏名	派遣時現職
総括（団長）	吉田朝啓	沖縄県公衆衛生研究所 所長
微生物・衛生動物	福村圭介	同 企画管理部長
環境汚染・食品科学	大山峰吉	同 理化学部長
業務調整	大喜多隆司	沖縄国際センター研修課職員

なお、大山氏については、オブザーヴァーとして本コースの研修実施契約委託先である沖縄県国際交流財団の経費負担により派遣されたものである。

4. 調査内容

- 1) 帰国研修員の現況と動向
- 2) 研修効果の把握
- 3) 帰国研修員所属先及び関連機関の実情
- 4) 本コースへの各機関からの要望事項

5. 調査方法

- 1) 帰国研修員とその所属先及び関連機関への訪問・面談
- 2) コースの内容等に関わる帰国研修員向け質問表の送付・回収（資料4）

なお帰国後、各研修員所属先の長（局長あるいは所長レベル）宛、各国JICA事務所経由で英文による簡単な所見を提出した。（資料5）

6. 調査日程

日数	月日	曜	時刻	訪 問 先	宿 泊 先
	12/3	日		那覇 → 東京	東 京
1	4	月	11:00 16:00	東京（成田）発 ジャカルタ 着	ジャカルタ
2	5	火	9:30 10:15 12:00	JICAインドネシア事務所 在インドネシア日本大使館 保健省伝染病防圧・環境保健局	〃
3	6	水	9:00 9:40 14:00 19:00	保健省薬品食品管理局 〃 薬品品質管理試験所 〃 伝染病研究センター 懇親会	〃
4	7	木	10:30 16:00	保健省伝染病防圧・環境保健局等（再訪問） JICAインドネシア事務所	〃
5	8	金	11:55 14:40	ジャカルタ 発 デンパサール（バリ）着	デンパサール
6	9	土	9:00 17:50 18:35	保健省バリ支局 デンパサール発 ジャカルタ 着	ジャカルタ
7	10	日	17:20 21:50	ジャカルタ発（シンガポール経由） バンコク 着	バンコク
8	11	月	8:40 10:00 14:00	JICAタイ事務所 保健省医科学局 〃 伝染病予防局（性病課）	〃
9	12	火	9:30 11:00 17:00 19:00	〃 伝染病予防局（本局） 〃 食品薬品局 JICAタイ事務所 懇親会	〃
10	13	水	8:30 9:35 10:45	バンコク 発 チェンマイ 着 保健省第10地域結核センター	チェンマイ

日数	月日	曜	時刻	訪 問 先	宿 泊 先
11	12/14	木	9:20 10:25 13:00	チェンマイ発 バンコク 着 環境庁	バンコク
12	15	金	10:40 14:45 17:30	バンコク 発 マニラ 着 JICAフィリピン事務所	マニラ
13	16	土	9:45 12:00	保健省バンパンガ地区保健局 〃 同附属ルソン中央病院	マニラ
14	17	日		休 日	〃
15	18	月	10:00 14:00	保健省調査研究局 カローカン市保健局	〃
16	19	火	10:00 19:00	マカテ市保健局 懇親会	〃
17	20	水	15:35 19:55	マニラ発 大阪 着	大 阪
	21	木		大阪 → 沖縄	

7. 主要面談者

機関名・氏名	役職
[インドネシア]	
12/5	
1. JICAインドネシア事務所	
北野 康夫	所長
布施 淳	所員
2. 在インドネシア日本大使館	
中垣 俊郎	一等書記官
3. 保健省伝染病防庄・環境保健局	
Department (以下Dep.) of Communicable Diseases Control and Environmental Health, Ministry of Health	
Mr. H. f. Olli	Chief, General Division
Mr. Supriyanto	帰国研修員
Mr. Achmad Isfarain	帰国研修員
Ms. Siti Zubaidah	” 他
12/6	
4. 保健省薬品食品管理局	
Dep. of Drug and Food Control	
Dr. Slamet Soesilo (表敬)	Director General
.....	
Ms. Rusiati Sumapradja	帰国研修員
Mr. Suara Murtjana	”
(Mr. Suara に関しては、バンドンよりジャカルタに参集願った。)	
5. 同 薬品品質管理試験所	
National Quality Control Laboratory of Drug and Food Control	
Dr. Charles J. P. Siregar	Director
Dr. Emelia Logawa	Chief, Drug Division 他
6. 同 伝染病研究センター	
Center for Communicable Diseases Research	
Dr. Suriadi Gunawan	Director
Edhie Sulaksono	Staff, Animals Unit 他
12/7	
7. 同 伝染病防庄・環境保健局 (再訪問)	
Dr. Arwati Soepanto	Chief, Secretary General
Dr. Soesilo Soerjosembodo	Chief, Animal Borne Diseases Division
Mr. Achmad Isfarain	帰国研修員 他

8. 同 ジャカルタ市特別区薬品食品試験所

Jakarta Provincial Office of Drug and Food Control

Dr. Hernowo Toha	Director	
Mr. Suhardjo	Staff	
Ms. Kusantinah	Staff	
Ms. Rusiati Sumapradja	帰国研修員	他

* 7., 8. 共に帰国研修員の上司に会うために、再訪問したものである。

12/9

9. 同 バリ支局

Bali Regional Health Office

Dr. D. P. Sudana	Head, Health Service Division
Dr. Made Astika	Staff, CDC Division

[タイ]

12/10

10. JICA タイ事務所

斎藤 勉	所長
原 智佐	所員

12/11

11. 保健省医科学局毒物課

Dep. of Medical Sciences, Ministry of Public Health

Dr. Naunta Muangnoicharoen	Chief, Toxicology Division
Ms. Hansa Chaivanit	帰国研修員 他

12. 同 伝染病予防局性病課

Venereal Diseases Division, Dep. of Communicable Diseases Control

Dr. Somsak	Director, Vangrak VD Centre*
	(*性病課附属のクリニックである。)
Mr. Amporn	Chief, Laboratory Section
Ms. Busaba Klinchuanchuen	帰国研修員 他

12/12

13. 同 一般伝染病課

General Communicable Diseases Division, Dep. of Communicable Diseases Control (CDC)

Dr. Teera Ramasoota	Director General
Dr. Apichart Mekmasin	Staff, General CDC Division
Dr. Plyonk Sagarasaeranee	帰国研修員 他

14. 同 食品薬品局化粧品課

Dep. of Food and Drug Administration

Ms. Boonsri Ramdecha	Chief, Cosmetics Control Division
Ms. Nittaya Yamphayak	帰国研修員 他

12/13

15. 同 第10地域(チェンマイ)結核センター

Tuberculosis Centre, Zonal 10

Dr. Chawalit Natpratan	Director
Ms. Sribut Thepsee	Head, Public Relations and Training Section
Ms. Piyada Sae-ko	帰国研修員
Dr. Parit Tangulrat	帰国研修員 他

(Dr. Paritに関しては、プラエよりチェンマイに参集願った。)

12/14

16. 環境庁

Office of the National Environment Board (ONEB)

大田 匡裕	JICA専門家
安部 喜也	JICA専門家
廣中 博見	JICA専門家
Ms. Monthip T. Tabucanon	Head, Laboratory and Research Section 他

[フィリピン]

12/15

17. JICAフィリピン事務所

大島 勝彦	次長
斎藤 克郎	所員
Florêncio B. Perez	現地所員

12/16

18. 保健省第3(バンバンガ)地区保健局

Regional Health Office No. 3, Department of Health

Dr. Benito F. Arca	Chief, Health Manpower Development and Training Division
Ms. Salome Romero Palsimon	帰国研修員

12/18

19. 同 調査研究局

Bureau of Research and Laboratories

Dr. Tomas Maramba, Jr.

Undersecretary

Ms. Teresita Dumpit Loyola

婦国研修員 他

20. カローカン市保健局

Kalookan Health Department

Dr. Guillermo L. Papa

City Health Officer

Dr. Corazon A. Aberin

Assistant City Officer

Ms. Teodora C. Cruz

婦国研修員 他

12/19

21. マカテ市保健局

Makati Health Department

Dr. M. A. Lourdes B. Salud

Chief Medical Officer

Ms. Dominga S. Robete

婦国研修員 他

II. フォローアップ調査結果

1. インドネシア

1) 行政組織の概要と研修候補者募集・選考状況

大統領・副大統領の直下にある21の省の中に保健省 (Ministry of Health) があり省内の組織は多岐にわたって複雑を極めるが、大略下記4局が現業を分担している。

すなわち;

公衆衛生推進局 (Department (以下Dep.) of Promotion of Public Health)

医務局 (Dep. of Medical Service)

伝染病防圧・環境保健局 (Dep. of Eradication of Communicable Diseases and Environmental Health)

薬品食品管理局 (Dep. of Drug and Food Control)

公衆衛生集団研修のGeneral Information (以下G.I.と省略) は、JICAインドネシア事務所から保健省へ届けられるが、保健省からは、上記4局のうち、伝染病防圧・環境衛生局と薬品食品局の2局だけに送付され、他の2局には、公衆衛生コース研修員の募集があることさえ知らされていない状況である。

また、G.I.そのものは、当該局の局長クラスの数名が目にするだけで、中堅以下の肝心の技術職員には届いていないことも問題である。

JICAインドネシア事務所から保健省にG.I.を送付する場合は、出来るだけ多数を、“関係機関宛の付箋を付けて”周知方を要請することが望まれる。

2) 研修員の所属先調査結果

[伝染病防圧・環境保健局媒介動物伝染病課]

① 所属研修員

Ms. Siti Zubaidah

Mr. Achmad Isfarain

② 職場環境

伝染病媒介動物のうち、主として蚊属の採集・分類・殺虫剤テストなど、極めて初歩的な調査・検査を行ってはいるものの、むしろ、行政的な防圧業務の指導や現場調査などが主務のようにみうけられた。

衛生動物学的な調査・研究に不可欠な施設・設備はゼロに近く、この兩名の場合、公害衛研における研修の効果については、極めて懐疑的とならざるを得ない状況である。

③ 研修員による研修事業に対する評価

Ms. Siti Zubaidah は、研修前から現在まで、一貫して同課昆虫室において伝染病媒介昆虫対策の技術部門に従事しており、公害衛研での研修がストレートに役立っていると評価しているが、Mr. Achmad Isfarain は、同対策評価室において行政的な監視・指導業務に従事していることもあって、研修の成果が日常業務に活かされず、余り高い評価は得られてない。

[伝染病研究センター]

① 所属研修員

なし

② 職場環境

今回、参考機関として訪問した。保健省直属の試験研究体である国立保健調査開発研究所 (The National Institute of Health Research and Development) の一機関であり、主要伝染病の生理学的研究及び細菌・ウイルスなどの分析方法の移転などを行っている。本研究所の所長 Dr. Suriadi Gunawan も公衆衛生コースの研修内容に強い興味を示していた。

[食品薬品局]

① 所属研修員

Ms. Rusiati Sumapradja

Mr. Suara Murtjana

② 職場環境

A. ジャカルタ市特別区薬品食品試験所 (Ms. Rusiati)

全国27行政区に地区レベルの薬品食品試験所が設置されており、12あるAランクの機関の内の1つである。試験所は、職員数56名の比較的大きな機関であり、食品・医薬品・化粧品等について、監視・指導・収集・分析等を行い、総務・監視・分析の3部からなっている。

Ms. Rusiati は、1983年度 (第一回) に研修し帰国しているが、5年後 (1988年) に分析課長に昇進している。分析課の総職員数は36名で食品・清涼飲料・化粧品・生薬・民間薬・麻薬および微生物等の試験検査を行い業務量も多い。

分析機器は、旧式の分光光度計が2台稼働しているのみであり、原子吸光光度計は10数年前の旧式のもので故障しており、例えば有害重金属類の分析については、確実性・安全性・迅速性において、いささか問題なしとしない。

研修当初において、各々の研修員の職場環境、特に測定機器類の整備状況について十分なヒヤリングを行い、それに合わせる形で研修内容も若干修正せざるを得ないと感じられた。

B. バンドン地区試験所 (Mr. Suara)

試験所への訪問は行わず、Mr. Suaraをジャカルタに呼んで面接を行った。結果は、Ms. Rusiati の場合とほとんど同様、知識・技術の修得で大いに研修が役に立ったが、職場における機器の整備が不十分で、研修成果の還元はほとんどなされていないということである。

[同 環境保健課]

① 所属研修員

Mr. Supriyanto

② 職場環境

市中および工場における大気汚染、健康影響アセスメント、工場および病院等の排水の監視・測定、騒音の測定等、広範な業務を扱っている。

研修で得た知識や技術は大なり小なり、現業に還元している。

インドネシアに今までなかった「公害についてのManual」の編纂が、Mr. Supriyantoが主任となって企画・推進され、大気・水質・振動・騒音等の測定法が基準化され、1989年に出版された。

工場の煤塵測定に関しては、簡易式の検知管法を採用しており、研修で得た最新式の自動測定器での方法が活かされない状況にある。研修内容に若干の調整が必要と考えられた。

③ 研修員による研修事業に対する評価

地方の27の行政区内で発生する環境問題でより重要な件は、彼のところに報告され、また、環境問題のエキスパートとして問題解決のため地方に出張する機会が多く、研修で得た知識が大いに役立っているとの高い評価が得られた。

[保健省バリ支局]

① 所属研修員

なし

② 職場環境

支局総務課長Dr. D. P. Sudana および伝染病課医師Dr. Made Astika との面談により、バリ地区の概要を知る。

マラリアの流行はすでに無く、伝染病、特に結核・寄生虫病・一般急性消化器伝染病の発生率も他地区に比べて低率である。

観光地としての衛生状態を向上・維持すべく、全力を挙げて取り組んでいる姿勢がうかがえる。

[薬品食品品質管理試験所]

① 所属研修員

なし

② 職場環境

今回参考機関として訪問した。薬品食品局直属の試験分析機関であり、インドネシア27行政区の試験所（上記B.含む）の試験所で不適と判断された食品・医薬品・化粧品等の試験、クロス・チェック等の業務を行う全国レベルの上位機関である。

食品部、化粧品部は、市販流通品をメーカーから取り寄せ、Standardとして保管しており、不適品として送付されたものとの比較検査が容易に出来る様になっている。検査項目は我国とほぼ同様である。

なお、実験棟は日本政府の無償援助により1985年3月に完成し、また1983年4月～1989年3月（1年間のフォローアップ期間含む）にかけてJICAにより『薬品品質管理強化プロジェクト』が実施され専門家派遣及び日本への研修員受入れが行われている。

また高度の精密分析機器も供与され、充実していた。

本試験所の所長Dr. Charles J.P. Siregar との面談時に公衆衛生コースの概要について説明したところ、ハブの研究も行っている公害衛研での研修内容に大いに興味を示し、抗毒素研究などのために、職員を派遣したいと希望を表明していた。

2. タイ

1) 行政組織の概要と研修候補者募集選考状況

タイ王国は、首相の下に総理府があり、その下に13の省がある。

保健省には、医務局・伝染病予防局・保健局・医科学局・食品薬品局の5局があり、総合病院6、特殊病院3、地区医学センターの6の付属施設を抱えている。

公衆衛生集団研修のG.I.は、JICAタイ事務所から、タイ国技術経済協力省(DTEC; Dep. of Technical and Economic Cooperation)に送付され、そこで該当する機関・団体が、研修候補者をノミネートし、英語能力試験を経て決定するという手順で研修候補者が選定される。

集団研修コースの名称が「公衆衛生」となっているためか、DTECからのG.I.の発送が保健省のみに限られ、公害防止・環境保全を担当する環境庁(後述)には届けられていない。

日本では、広義の公衆衛生の中に公害防止・環境保全が含まれるということも、上記DTECに周知させることが肝要と思われた。

2) 研修員の所属先調査結果

[保健省医科学局・毒物課]

① 所属研修員

Ms. Hansa Chaivanit

② 職場環境

医科学局全体が一つの研究所の様態を示し、医動物・放射能・臨床病理・医薬分析・食品化学・ウイルス学・薬理学など、医科学の各分野が取り扱われている。

毒性研究部は、環境科学(公害部門も含む)・裁判科学・化粧品中の有害物質・微生物などの検査を主務とし、Ms.Hansaは環境科学を担当している。

国立の機関であるためか、必要な機器類は一応整備されているが、より高度の分析に必要な備品・消耗品等の補給が十分でないようである。

③ 研修員による研修事業に対する評価

集団研修では、水質と大気について知識と技術を得たが、現在の業務に直接還元でき非常に有益であり、また同一職場で研修希望者が多数いるので、今後とも同分野を継続して欲しいと、高く評価している。

[保健省伝染病予防局・性病課]

① 所属研究員

Ms. Busaba Klinchuanchuen

② 職場環境

いわゆる性病の外、Sexually Transmitted Diseasesとしてのエイズ(AIDS)等の検査も手懸けており、性病専門の病院にも隣接してタイ国で最も多忙で水準の高い性病対策センターである。

③ 研修員による研修事業に対する評価

公衆衛生集団研修コースの第一回生として来日し、微生物学全般について学んだが、帰国後も変わらず性病だけを担当しているため、研修の成果を全面的に応用発展させることはできないが、細

菌学的検査からウイルス学的検査へと性病課の業務が発展した場合にも、余裕を持って対応することができたことは、研修のお蔭であると、高く評価している。

[同 ・一般伝染病課]

① 所属研修員

Mr. Plyyong Sagarasaeranee

② 職場環境

ウイルス・細菌・原虫・寄生虫等による広範囲な感染症を扱っており、中でも吸虫類・フィラリア類・デング熱等の研究に力をいれている。

伝染病予防局長・Dr. Teera Ramasoota,伝染病課長・Dr. Apichart Mekmasin, および幹部を交えての説明会が催され、研修の内容に関する質問が多く出され、また研修希望者も続出するなど、訪問の効果が強く感じられた。

③ 研修員による研修事業に対する評価

研修員は、伝染病課の主任研究員の立場にあり、研修期間中に得た知識や技術が徐々に効果を発揮しつつあり、特に沖縄で学んだレプトスピラ症に関する検査技術は、非常に役に立っていると、高く評価している。

[保健省食品薬品局・化粧品課]

① 所属研修員

Nittaya Yamphayak

② 職場環境

研修員は、化粧品の登録を担当しており、いわゆる行政官である。従って分析業務には全く関与していない。

③ 研修員による研修事業に対する評価

研修では、分析技術と衛生化学に関する知識を学んだが、その成果は業務に大いに還元されている。化粧品については、絶えず新製品が登録申請されてくるが、登録事項の中には必ずその主成分の分析法が記載されなければならないが、その記載が正確なものかどうか審査検討する必要がある。

その分析法については、以前は余り注意しないで認可していたが、研修後は、分析法の意味するところ、使用する分析機器とその試験法における精度などが妥当なものかどうか等、を勘案する際に、行政分野ではあるが、研修で得た知識を発揮でき、非常に役に立っている。

[保健省第10地区（チェンマイ）結核センター]

① 所属研修員

Ms. Piyada Sae-ko

② 職場環境

チェンマイ全国に12ある地区結核センターの中でも最大級の70人の陣容を持ち地区の結核対策の拠点である。その中の臨床検査部門に所属していたMs. Piyadaは、その後、大学で疫学を学び、現在では、同センターの結核に関する疫学主任に昇格している。

④ 研修員による研修事業に対する評価

Ms. Piyadaは、研修で、微生物学全般を学んだが、結核のみのセンターであるため、研修の成果を全面的に適用することはできないが、期間中に得た疫学的方法論に関する基礎知識が徐々に役に立ってきていることを実感すると、高く評価している。

[保健省プラエ地区保健局]

① 所属研修員

Dr. Parit Tingulrat

② 職場環境

チェンマイより約150km離れたプラエにあり、今回訪問せずに研修員にはチェンマイに来てもらい上記Ms. Piyada と同時に面談を行った。

本人の所属先はプラエ地区を統括する保健局におき予防医学担当のSenior Specialist (2人の次長職の内の1人)として地域総合保健に力を入れている。

③ 研修員による研修事業に対する評価

Dr. Paritは、研修で微生物学および衛生動物学・毒蛇対策を学んだが、広範で複雑な地域医療を担当する医師の立場にあって、研修の成果はやはり徐々に効力を発揮しつつあると、高く評価している。

[コーンケン大学]

① 所属研修員

Dr. Ticumporn Kuyyakanond

② 職場環境

今回、研修員の時間的都合により訪問できなかった。本大学は大学省 (Ministry of University Affairs) に属する国立大学であり、Dr. Ticumpornは保健省以外より派遣された唯一の研修員である。薬学部微生物学科において准教授として勤務している。

[環境庁]

① 所属研修員

なし

② 職場環境

今回、参考機関として訪問した。副首相を委員長とする20名の委員から構成される合議体である国家環境委員会 (The National Environment Board) の事務局として設置され、機構的には科学・技術・エネルギー省の一下部機関でもあるが、現業部門を持たない調査機関として機能している。タイ国の急迫する環境問題に対処するために政府が強化しつつある部署である。日本からもJICAを通じて3人の専門家が派遣されている。調査研究課長Ms. Monthip T. Tabucanon女史により公害防止・環境保全の調査研究体制が整備強化されつつある。なお日本政府の無償援助により、附属の「環境研究研修センター」がまもなく着工開始され、また、JICAによるプロジェクト技術協力も行われる予定であり、完成後は、全国的なレベルでの環境保全関係者を対象とする研修及び研究機関となることを期待されている。

なお、前述した様に、タイ国では、環境保全の分野が「公害衛生」の範ちゅう外にあるため、公

害衛生技術者コースのG. I. がこの機関には届かず、女史に面談して始めてこの研修センターとしての研修の価値が認識されたようである。

本センターの整備に係わる高度の企画・内部整備等は、日本の国レベルの指導が必要であり、今後供与されるであろうが、中堅研究職員の実技研修については、かえって公害衛研のような地方研究所に委ねたほうが効果的だという感触も述べられた。

3. フィリピン

1) 行政組織の概要と研修員候補者募集・選定状況

首相の直下にある20の省・庁の一つとして保健省がある。

保健省は、総務局・事務局・法政基準局・医務局・公衆衛生局の5局からなり、一方では、全国地方実施委員会(Executive Committee for National Field Operation)の下に、15の国立病院・14の地方保健局・多数の地域保健所・地区保健所があり、その幾つかは首都マニラ圏内にも設置されている。

公衆衛生集団研修のG. I.はJICAフィリピン事務所から保健省に届けられ、それぞれ関連の機関に伝達されるが、インドネシア・タイの場合と同様、公平に広範に配布されているとは言いがたい実情が認められた。

前記他の2国にもその傾向が認められたが、人事を司る部署の主観的な判断によって、安易に選定されているのではないかという懸念を払拭し得ないような情報も、再三得られた。

2) 研修員の所属先調査結果

[パンパンガ地区保健局中部ルソン地区病院]

① 所属研修員

Ms. Palsimon Salome Romero.

② 職場環境

13の地方保健局に設置された地区病院の一つで、農村地帯の中心地Panpanga市にある。

この地区病院の内部にある臨床検査室が研修員Ms. Salome の職場である。後述のマニラ首都圏にある地区保健所よりも設備は整っており、研修の成果の還元するに当たっては、大きな支障はないものと判断された。

細菌検査室は、約25㎡で、中型フ卵器2基、冷蔵庫、顕微鏡、アルコール・ランプ等があり、遠心器、小型乾燥滅菌器等は他室との共用。試薬、特に各種乾燥培地、各種診断抗血清は皆無の状態で、地方中核病院の検査室としては、整備不十分といわざるを得ない。

要望としては、少なくとも乾燥滅菌器、各種乾燥培地、各種診断用抗血清等の資材の供与を訴えていた。

特記事項として、公害衛生で学んだClostridium botulinum の実験室診断法について、帰国後関係職員に講義・指導したり、コレラ対策について、関係機関に意見書を提出したり、研修の成果を早速存分に活用していることが報告された。

③ 研修員による研修事業に対する評価

地方保健局の保健要員開発訓練課課長Dr. Benito F. Arca を含めた研修員との面談の結果、公衆衛生集団研修コースは、上述の13の地方保健所レベルの施設にとっては極めて有効で、応用範囲が広いという所感であった。

参加したサブ・コースが微生物・感染症対策であったため、フィリピンの農村地域における感染症対策に直接貢献できる、と高く評価されている。

[調査研究局]

① 所属研修員

Ms. Teresita Dumpit Loyola

② 職場環境

職場は、4階建ての古い施設であるが、組織として、管理部・第一研究部・第二研究部・研究企画管理部の4部からなり、各々に専門研究室(課)が所属する。

機能としては、検査サービスおよび調査・研究を行っており、研修員は第一研究部細菌室に所属している。

研究所の取り扱う分野としては、細菌・ウイルス・免疫学・寄生虫・ガンの細胞診断等、広範囲にわたっており、WHOによる疫学調査研究室も最近構内に併設された。

研究室内の器機整備状況は、ほぼ満足できる程度であるが、どこも狭隘で、通常的な検査業務が主流のように見受けられた。

研修員は、地方衛生試験場から送られてくるサルモネラ・赤痢菌・コレラ菌などの固定と詳細な抗原型の固定等に従事しており、要望として、帰国研修員についても新技術の再研修の機会を与えるよう望むということであった。

[カローカン市保健局]

① 所属研修員

Ms. Teodora C. Cruz

② 職場環境

マニラ首都圏を構成する一自治市であるカローカン市の唯一の保健施設で、わが国でいえば東京都の各区部保健所に相当する。

Ms. Cruzは公衆衛生検査室に所属し、当該保健局における結核の検診と治療、性病・下痢症・らい等の検診及び治療を行い、予防接種業務も行っている。

検査室の整備状況はまことに貧弱で、顕微鏡2台・小型卓上遠心器1台あるのみで、各種疾病の検査も、直接鏡検による極めて原始的な方法によるものである。

ここでの、研修成果の還元は悲観的と言わざるを得ない。

③ 研修員による研修事業に対する評価

研修の成果は大きく、その還元も好調だと、一応評価しているが、実態との齟齬は覆うべくもなく、この種末端施設からの応募には慎重な人物・職務分掌および施設の規模・整備状況の検討が必要と判断された。

[マカテ市保健局]

① 所属研修員

Ms. Dominga S. Robete

② 職場環境

上記と同じくマニラ首都圏の一市マカテにある保健局の公衆衛生検査室に所属しSr. Medical Technologistとして勤務しており、当該保健局における結核・性病・下痢症・らい等の検診と治療を行っている。

施設は、ここも貧弱で、顕微鏡2台、小型卓上遠心器1台があるのみで、研修成果の還元はここで

も悲観的であると判断された。

③ 研修員による研修事業に対する評価

上記カローカン地区とほぼ同様に、要検討の地区と答える。

Ⅲ. 帰国研修員に対する質問表の集計結果

今回訪問対象帰国研修員計16名（インドネシア5名、タイ7名、フィリピン4名）の内、タイ1名を除く15名について標記質問表（資料4参照）を回収することができた。標本数が少なく、研修員の中には、7年前の事であり、評価が必ずしも定かではない部分も有ると推測されるが、大体の傾向は、つかめよう。

なお、アンケートに関し、評価の1～5は、それぞれ各設問ごとに、以下の如く読み替えて集計している。

設問1. 来日前におけるG.I.の周知度

	全然知ら なかった	少し 知っていた	ある程度 知っていた	かなり 知っていた	良く 知っていた
インドネシア	0	0	2	3	0
タイ	0	2	0	3	1
フィリピン	0	0	0	2	2
計	0	2	2	8	3

[コメント]

殆どの人が内容を把握していたと思われるが、細かいカリキュラムに及んでいるかが疑問である。本文で触れたように、応募国でのG.I.の配布状況にも関連すると思われる。また、日本側に於ても、G.I.の前広な送付に留意する必要がある。

設問2. 研修期間の長さ

	短い	やや短い	丁度良い	やや長い	長い
インドネシア	0	1	2	0	2
タイ	1	0	3	1	1
フィリピン	0	2	2	0	0
計	1	3	7	1	3

[コメント]

丁度良いを中心に、意見が分かれている。サブ・コースが適合しなかった人が、長いと思う傾向がある様に思われる。

設問3. 研修レベル

	低い	やや低い	丁度良い	やや高い	高い
インドネシア	0	0	4	1	0
タイ	0	1	5	0	0
フィリピン	0	0	3	1	0
計	0	1	12	2	0

[コメント]

レベル的にはほぼ満足させたと言える。

設問4. 参加研修員の数

	少ない	やや少ない	丁度良い	やや多い	多い
インドネシア	1	2	2	0	0
タイ	0	1	5	0	0
フィリピン	1	1	2	0	0
計	2	4	9	0	0

[コメント]

コース実施上から、現在の5～6人という状況が望ましいレベルであるが、各サブ・コース1～2人に分れるため、寂しく感じた研修員がいたかもしれない。

なお、「もっと参加させて欲しい」との声は、しばしば現地で聞かれた。

設問5. 研修トピックは期待していた通りのものであったか？

	全然	少し	ある程度	かなり	期待通り
インドネシア	0	0	2	3	0
タイ	1	0	3	2	0
フィリピン	0	0	2	2	0
計	1	0	7	7	0

[コメント]

G.I.の周知度とも関連する。

設問6. コース運営

	悪い	余り良くない	普通	大体良い	良い
インドネシア	0	0	2	0	3
タイ	0	0	0	6	0
フィリピン	0	0	1	2	1
計	0	0	3	8	4

[コメント]

ほぼ満足を得たが、今度とも、個々の研修員のニーズに合わせたカリキュラム調整に留意していく必要がある。

設問7. 時間配分

(1) 講義	少ない	やや少ない	丁度良い	やや多い	多い
インドネシア	0	0	4	1	0
タイ	0	2	4	0	0
フィリピン	0	1	3	0	0
計	0	3	11	1	0

[コメント]

テキストを整備し、講義数を多くしていくことを検討していく。

(2) 討論	少ない	やや少ない	丁度良い	やや多い	多い
インドネシア	0	1	3	1	0
タイ	0	3	3	0	0
フィリピン	0	1	3	0	0
計	0	5	9	1	0

[コメント]

(1) 同様テキストに沿って、討論もふやしていきたい。

(3) 室内実習	少ない	やや少ない	丁度良い	やや多い	多い
インドネシア	0	0	4	1	0
タイ	0	1	5	0	0
フィリピン	0	1	2	1	0
計	0	2	11	2	0

[コメント]

サブ・コースによってニュアンスが異なるが、大体適当であると思われる。

(4) 野外実習	少ない	やや少ない	丁度良い	やや多い	多い
インドネシア	0	2	1	2	0
タイ	0	2	4	0	0
フィリピン	0	1	2	1	0
計	0	5	7	3	0

[コメント]

公害部門では野外実習を多くしたほうが、良いと考えられる。

(5) 研修旅行	少ない	やや少ない	丁度良い	やや多い	多い
インドネシア	0	2	2	1	0
タイ	0	1	5	0	0
フィリピン	0	1	3	0	0
計	0	4	10	1	0

[コメント]

ほぼ1ヶ月に1度、近隣あるいは本土への研修旅行を行ってきており、評価された。

設問8. 研修内容と自国での業務との関連性

	無い	あまり無い	ある程度	かなりある	十分に ある
インドネシア	0	0	0	1	4
タイ	0	0	2	4	0
フィリピン	0	0	1	2	1
計	0	0	3	7	5

[コメント]

職場での器機の整備状況あるいは、現在の職務により、研修内容が必ずしも十分に生かされない例もあった。

設問9. 研修設備

	悪い	あまり良くない	普通	かなり良い	非常に良い
インドネシア	0	1	0	1	3
タイ	0	0	0	2	4
フィリピン	0	0	1	1	2
計	0	1	1	4	9

[コメント]

1人を除き、高い評価を得た。

設問10. 研修中に何か問題点はあったか?

	あった	無し
インドネシア	1	4
タイ	1	5
フィリピン	3	1
計	5	10

有りとなれば、どんな点か?

言葉の問題(5名)、食事(1名)、ホームシック(2名)重複回答あり

[コメント]

その都度、対応していきたい。

設問11. 講義の分かり易さは?

	非常に 難かった	やや 難しかった	普通	分り 易かった	非常に 分り易かった
インドネシア	0	0	0	5	0
タイ	0	1	4	0	1
フィリピン	0	0	0	2	2
計	0	1	4	7	3

[コメント]

テキストの併用等により、より理解度を高めていきたい。

設問12. 研修中に得た技術は、現在役立っているか?

	全然役立 っていない	余り役立 っていない	割と役立 立っている	役立って いる	非常に役 立っている
インドネシア	0	0	1	2	2
タイ	0	1	4	0	1
フィリピン	0	1	0	1	2
計	0	2	5	3	5

どんな点が、最も役立っているか?

媒介伝染病関連、食品添下化物・保存料等の計量、残留農薬の分析、大気・水のサンプリング
(2名)、講義法、精製方法、腸内細菌の同定等

[コメント]

各種分析方法に関して、来日後初めて経験する人も多く、有益であるとの評価を得た。ただ、器材の不備や、職務が管理的立場であるという理由で、研修で得た技術を生かす場がないという人も2名いた。また、昆虫写真の撮影テクニックを評価する研修員もいた。

設問13. 他に研修に含まれていれば良かったと思う事項は?

- 1) サンプリングの計画法、サンプリング法
- 2) AV技術
- 3) 機器の維持管理法
- 4) HIV, Hepatitisの検査法
- 5) 血液銀行、真菌学
- 6) データ解析の為のコンピュータ使用法
- 7) 殺虫剤の知識

[コメント]

これらの要望については、今後出来るだけカリキュラムに反映させたい。

設問14. 研修中に得た機器分析技術は、帰国後十分に活用されていますか?

	はい	いいえ	
インドネシア	3	2	
タイ	4	1	(1名未回答)
フィリピン	2	1	(1名未回答)
計	9	4	

[コメント]

いいえと答えた人は、全員が器材等の不備を訴えている。

設問15. 現在、日常業務上の問題はありますか?

[コメント]

- 1) 煙道ガス調査及び生物モニタリング調査
- 2) CFC, PCB, Trihaloethane, Pyrethroids insecticides等の参考品が無い。
- 3) 検査用・分析用の機器が無いもしくは不足
- 4) 最新図書の不足

設問16. その他コメント

[コメント]

- 1) 各専門分野別の研修を希望
- 2) 共同研修をしたい
- 3) 帰国研修員に最新の技術研修を行ってほしい
- 4) JICAに対し各種機器を供与してほしい
- 5) 英語テキストが必要

以上

*日本語コース他に関する集計結果は省略します。

IV. まとめ

沖縄県公害衛生研究所（以下公害衛研と略称）は、1983年以来、国際協力事業団（JICA）沖縄国際センター（OIC）が実施している「公衆衛生技術者に対する集団研修」の受入機関として今日まで、多大の成果を挙げてきている。

研修科目としては、環境保全・公害防止、感染症対策、衛生動物、食品衛生、および毒蛇対策の5つのサブコースに分かれて、講義・実習・見学を行い、平行して沖縄・日本全体の社会情勢も理解し、広い意味の交流の効果も挙げられるよう、配慮されている。

現在（1989年度）までに、本研修コースに参加した研修員は総勢36名に達し、研修員派遣国は、フィリピン・カンボディア・タイ・シンガポール・インドネシア・マレーシア・イラク・エジプト・タンザニア・スワジランド・リベリア・ブラジル・西サモア、など13ヶ国におよんでいる。

今般、フォローアップ調査として過去7ヶ年の間に参加して帰国した30名の内、インドネシア・タイ・フィリピン3ヶ国の帰国研修員16名（離職者1名を除く）を対象に実施した。

調査は、研修員の所属する省・庁の幹部上司を訪ね、研修事業のあらましを説明すると共に、研修生募集・選考過程などを質問するなどして、それぞれの国における当研修事業への対応を調べることから始められた。

その後、各研修員の職場を訪ね、直属の上司・同僚と共に面談し、職場環境、特に設備・備品等の整備状況、研修の成果の適用、業務に係わる困難性等、を実地に調査した。

それぞれの国における調査結果については、前章において詳述したが、あらまは以下の通りである。

- 1) 訪問した3ヶ国の関係者に面談した限りでは、JICAの提供する研修事業、わけでも公衆衛生技術者集団研修コースは概して評価が高く、継続実施・定員増加の要望が高い。
- 2) 各国の研修員候補者の募集と選考の過程には、多少の違いがあるが、G.I.の発送範囲が概して狭く、“来てほしい人”にまだ十分届いていないという印象が強い。
- 3) 帰国研修員の職場環境は、国、施設、ポジション等により、まちまちであり、それは直接的に研修成果の還元大きく影響することから、細心の注意をもって観察したが、概して整備が不十分で、研修の成果を支えるのに最小限必要な機器整備の緊急性と重要性が痛感された。
- 4) 研修期間中の習得度と研修成果の還元に関しては、また、研修直前の職務分掌とそれ以前の職歴・学歴とが大きく影響することから、研修員候補者の人物考査・内申書は詳細に記述してもらうことが、極めて肝要と考えられる。
- 5) 今回のフォローアップ調査は、公害衛研の幹部3名により行われたが、従来の研修カリキュラムを微妙に修正しなければならぬ部分も数多く認められ、調査の効果には絶大なものがあった。

V. 提言

- 1) G.I.の配布に当たっては、最も望ましい研修員候補者の選定が可能になるように、その配布時期・配布先・配布数・広報等を考慮する必要がある。
- 2) 研修員候補者の選定に当たっては、その技術レベルと研修内容とが適合するよう、できるだけProvinceレベル以上の機関から参加するよう配慮する必要がある。
- 3) 研修の成果を最大限にそれぞれの職務を通じて還元することができるように、研修員帰国の際に、最小限の機器・備品を携行させることのできる制度等を整備すること。
- 4) 公害衛研の研究職員36名のほとんどが、上述の13を数える研修員派遣国の社会情勢どころか、医療・公衆衛生事情、研修員の職場環境等に対する十分な情報を得ることができず、“研修員の真に必要な技術・情報”が何であるか、帰国後研修成果を最大限に発揮させるのにどのような配慮が必要かなど、肝心な点に自信が持てない状況にある。

この問題は、他のいかなる問題よりも深刻で、集団研修事業そのものの価値にも大きく影を落とすほどであると、事業開始当初から指摘されており、早急な対策が追られているところである。

Ⅵ 資 料

1. 国別研修員受入実績表
2. 今回訪問対象国帰国研修員リスト
3. 各国関係機関機構図
4. 質問表（様式）
5. 各国訪問機関宛英文所見（例）

1. 国別研修員受入実績表

年 度 国 名	昭和 58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成 元年	合計
カンボディア	0	0	0	0	0	0	1	1
インドネシア	1	1	1	1	0	1	1	6
マレーシア	0	0	0	0	1	0	0	1
フィリピン	1	2	1	0	0	1	1	6
シンガポール	1	1	1	0	0	0	0	3
タイ	2	1	2	1	0	1	1	8
エジプト	0	0	0	0	1	2	0	3
イラク	0	0	0	1	0	0	2	3
リベリア	0	0	0	1	0	0	0	1
スワジランド	0	0	0	0	1	0	0	1
タンザニア	0	0	0	0	1	0	0	1
ブラジル	0	0	0	0	1	0	0	1
西サモア	0	0	0	1	0	0	0	1
計	5	5	5	5	5	5	6	36

(注) 太字は今回訪問国

2. 今回訪問対象帰国研修員リスト

[インドネシア]

参加 年度	研修員氏名	研修時役職 (勤務地)	現 職 (勤務地) 1989.12.21 現在
58	Ms. Rusiati Sumapradja	Staff, Food Analysis Section, Jakarta Provincial Office of Drug and Food Control, Ministry of Public Health (ジャカルタ)	Head, Quality Control Labora- tory Section, Jakarta Provincial Office of Drug and Food Control, Ministry of Public Health (ジャカルタ)
59	Ms. Siti Zubaidah	Staff, Vector Born Diseases Control Division, Dep. of Com- municable Diseases Control and Environmental Health, Ministry of Public Health (ジャカルタ)	同 左
60	Mr. Supriyanto	Staff, Settlement and Sanitation Division, Dep. of Communicable Diseases Control and Environ- mental Health, Mini stry of Public Health (ジャカルタ)	同 左
61	Mr. Suara Murtjana	Head, Sub Division of Cosmetic and Health Equipments Quality Control Bundung Provincial Office of Drug and Food Control, Ministry of Public Health (バンドン)	Head, Sub Division of Cosmetic and Health Equipments Sub Ins- pection, Bundung Provincial Office of Drug and Food Control Office, Ministry of Public Health (バンドン)
63	Mr. Achmad Isfarin	Head, Vector Born Diseases Division, Dep. of Communicable Diseases Control and Environ- mental Health, Ministry of Health (ジャカルタ)	同 左

[タイ]

参加 年度	研修員氏名	研修時役職 (勤務地)	現 職 (勤務地)
58	Ms. Piyada Sae-ko	Staff, Tuberculosis Section, Zonal TB Center, Ministry of Public Health (チェンマイ)	同 左
58	Ms. Busaba Clinchuanchuen	Staff, Venereal Diseases Divi- sion, Dep. of Communicable Diseases Control, Ministry of Public Health (バンコク)	同 左
59	Dr. Plyyong Sagarasaerancee	Staff, Zoonosis Section, General Communicable Diseases Control Division, Dep. of Communicable Diseases Control, Ministry of Public Health (バンコク)	Head, zoonosis Section, General Communicable Diseases Control Division, Dep. of Communicable Diseases Control, Ministry of Public Health (バンコク)
60	Dr. Parit Tangubrat	Director, Soong-Men Hospital, Provincial Health Office, Mini- stry of public Health (プラエ)	Senior Specialist (Preventive Medicine), Provincial Health Office, Ministry of Public Health (プラエ)
60	Ms. Nittaya Yamphayak	Staff, Cosmetics Control Division, Dep. of Food and Drug Admini- stration, Ministry of Public Health (バンコク)	同 左
61	Dr. Thicumporn Huyyakanond	Assistant Professor, Dep. of Microbiology, Faculty of Medi- cine, Khon Kaen University, (コーンケン)	Associate Professor, Dep. of Microbilolgy, Faculty of Medi- cine, Khon Kaen University, (コーンケン) (今回訪問せず)

参加年度	研修員氏名	研修時役職 (勤務地)	現職 (勤務地)
63	Ms. Hansa Chaivanit	Staff, Toxicology Division, Dep. of Medical Sciences, Ministry of Public Health (バンコク)	同 左

[フィリピン]

参加年度	研修員氏名	研修時役職 (勤務地)	現職 (勤務地)
58	Ms. Teresita Dumpit Loyola	Staff, Bacteriology Laboratory, Bureau of Research and Labora- tories, Ministry of Health (マニラ)	同 左
59	Ms. Teodora C. Cruz	Staff, Public Health Laboratory, Kalookan Health Department, Kalookan City (マニラ)	同 左
59	Ms. Dominga S. Robete	Staff, Social Hygiene Laboratory Section, Makati Health Depart- ment, Makati City (マニラ)	Head, Social Hygiene Laboratory Section, Makati Health Depart- ment (マニラ)
60	Ms. Dina Lemoncito	Staff, Regional Health Labora- tory, Regional Health Office No. 4 Ministry of Health (ケソン)	離 職 (今回訪問せず)
63	Ms. Salome Romero Palsimon	Staff, Laboratory Department, Central Ruzon Regional Hospi- tal, Regional Health Office No3., Ministry of Health (パンパンガ)	同 左

3. 各国関係機関機構図

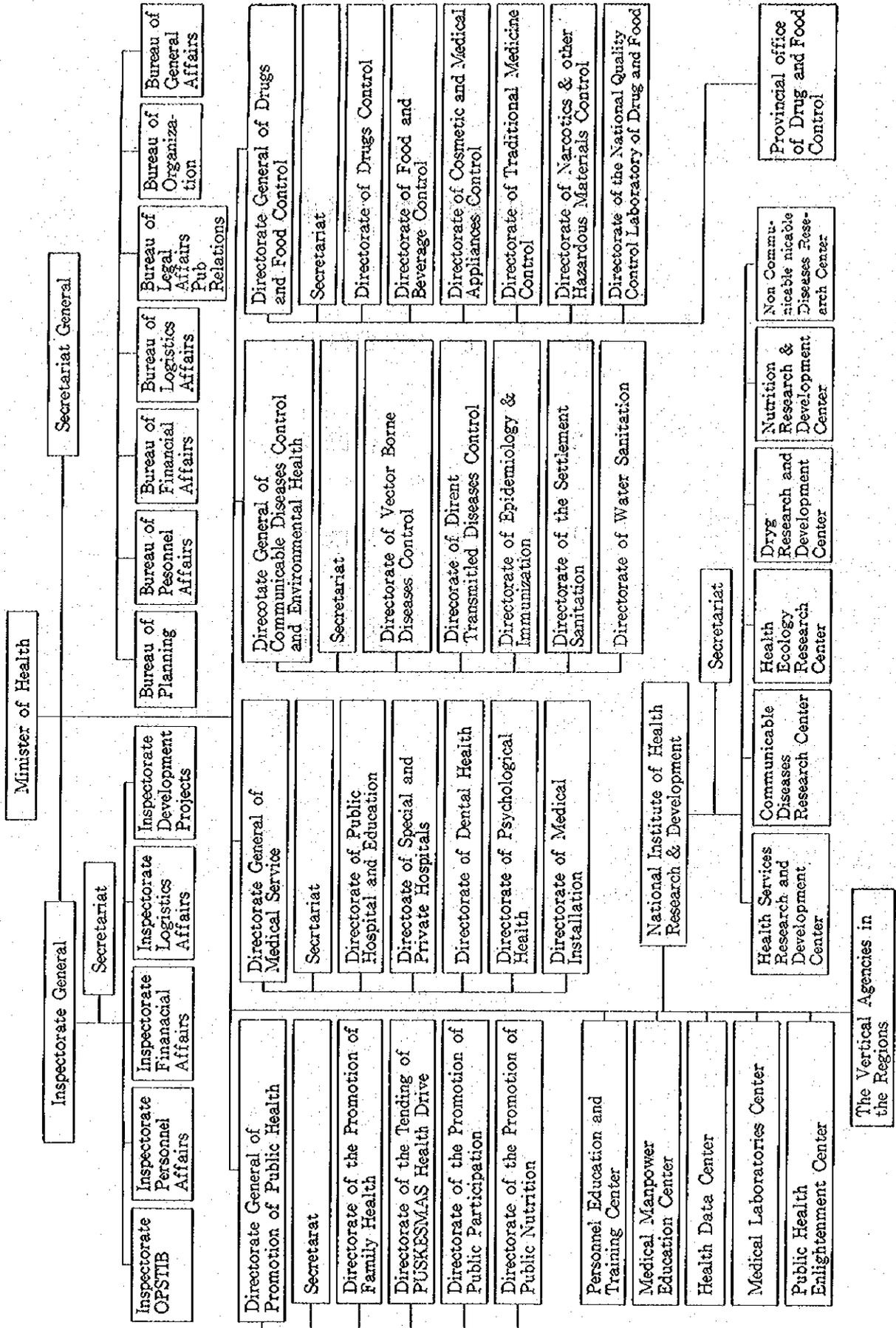
(1) インドネシア保健省

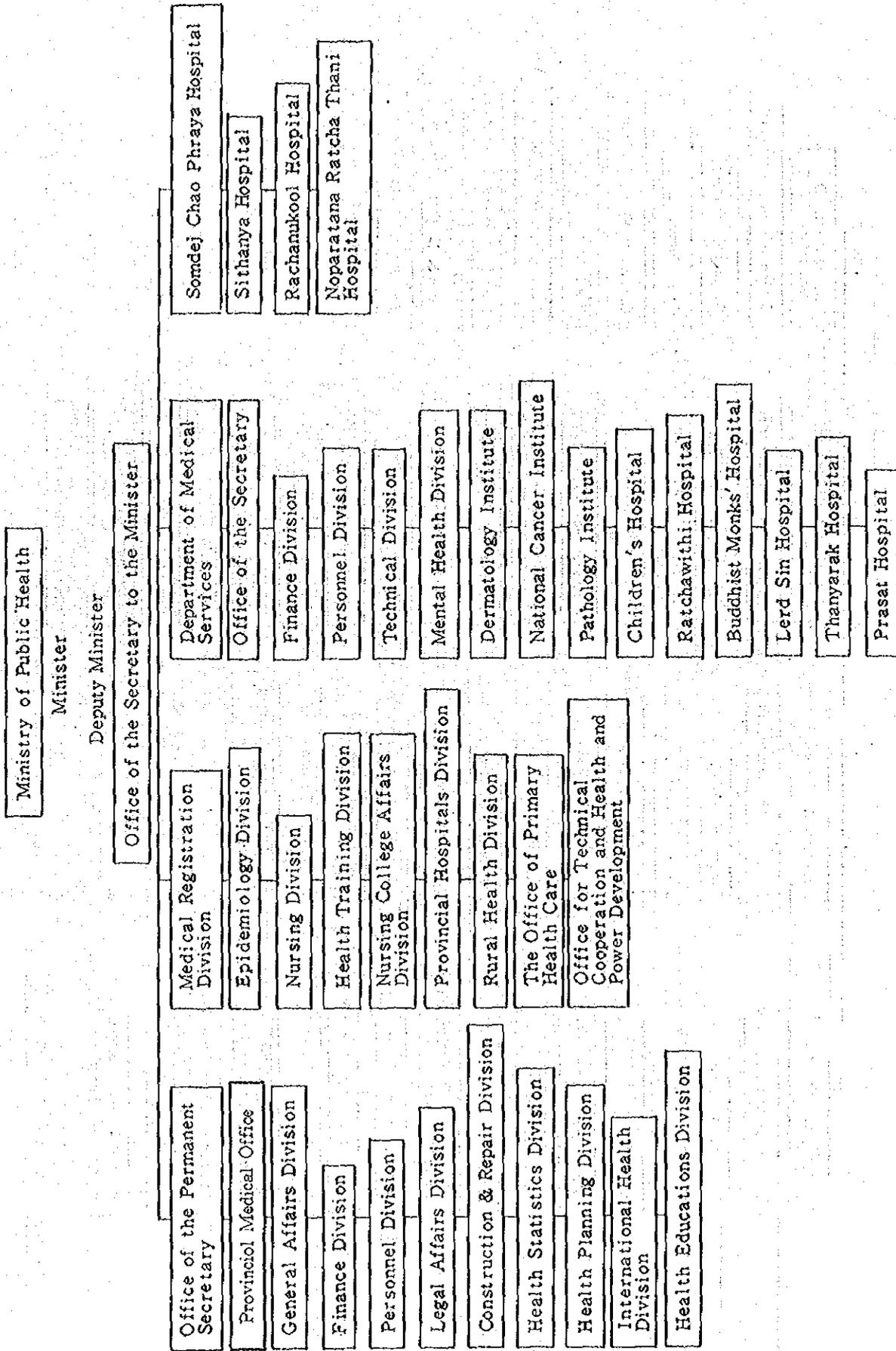
(2) タイ保健省

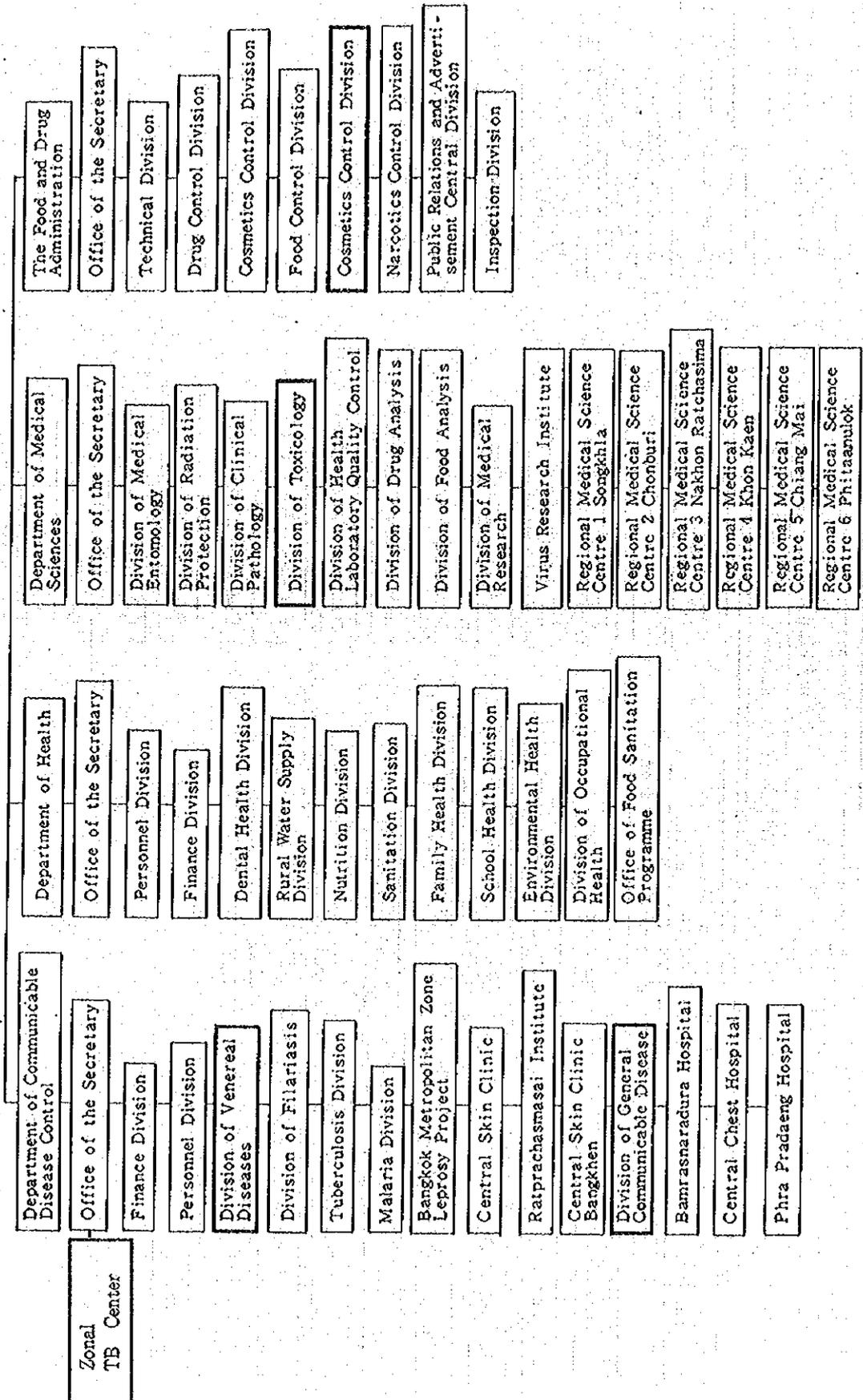
(3) // 環境庁

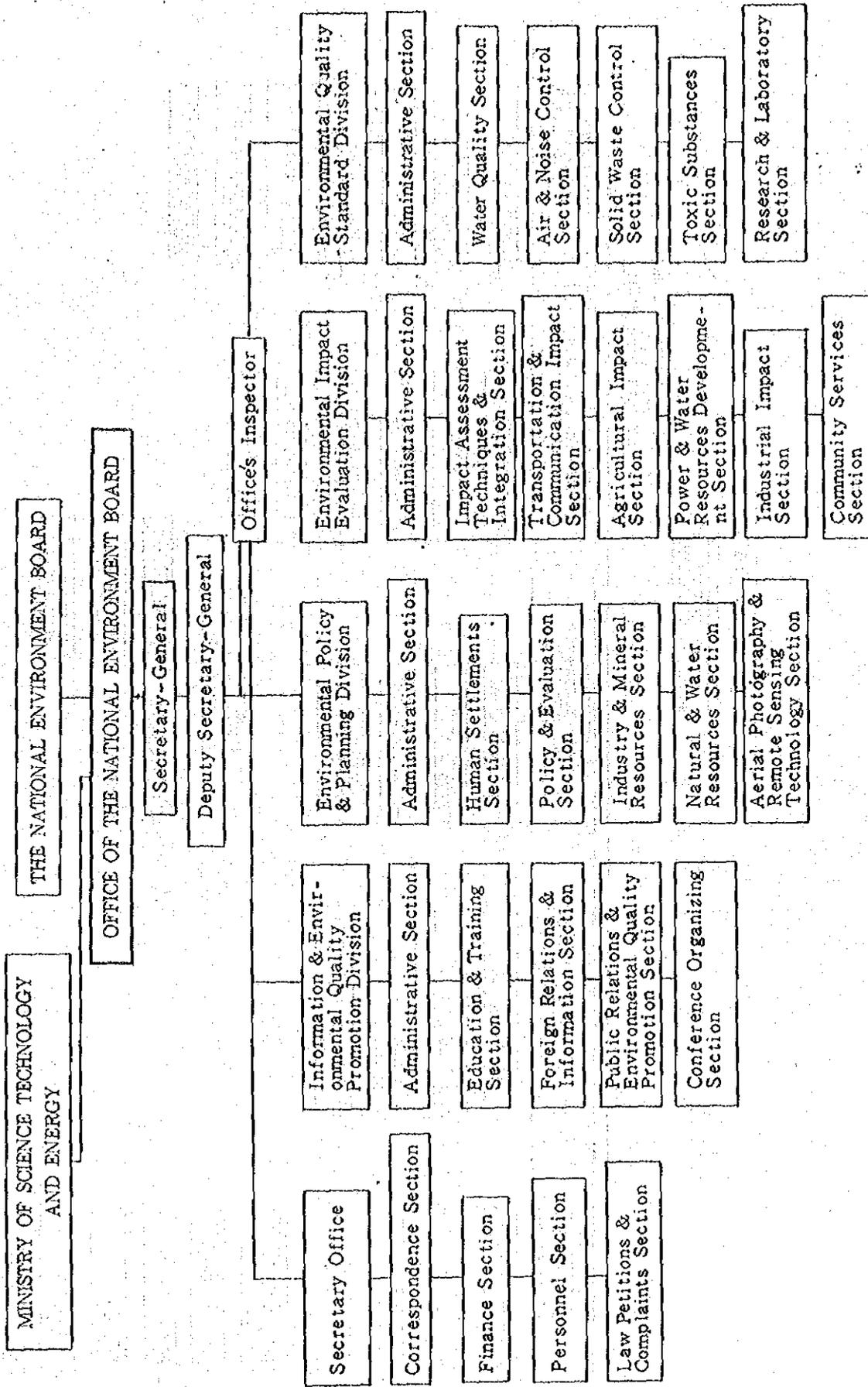
(4) フィリピン保健省

(1) インドネシア保健省組織図



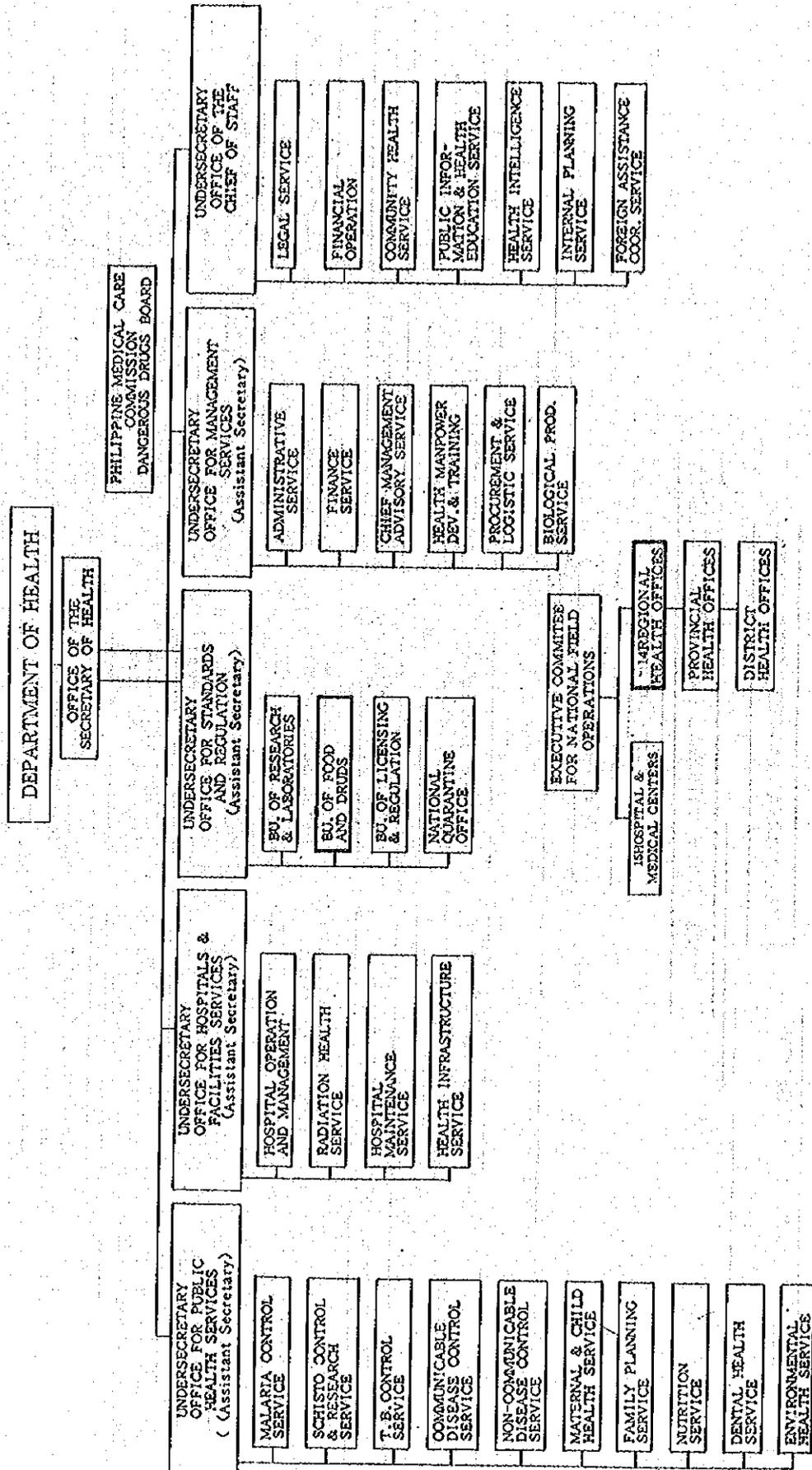






(4) フィリピン保健省

(1987年現在)



(注) カローカン市保健局及びマカテ市保険局はそれぞれカローカン市政府及びマカテ市政府の下部機関であり、この図中には含まれていない。

4. 質 問 表 (様 式)

Date : _____ , 1989

Dear Sir,

I am writing to you with the hope that you are actively engaged in your work in excellent health and in high spirits since you returned to your country after training in Japan.

It is a pleasure for me to inform you that the Japan International Cooperation Agency is doing utmost efforts to expand and improve its technical training program year after year. We have accepted a total of 71, 919 Participants from developing countries during the period of 1954 - March 1989. In fiscal 1989, we plan to accept 5,500 Participants and conduct 274 Group Training Courses and seminars.

In programing future training course, we endeavor to place emphasis not only on increasing the number of participants to meet increasing requests from developing countries but also on improving the quality of training programs.

For this purpose we would like to know how and to what extent the ex-participants in our training courses and seminars are making use of knowledge and technology acquired in Japan and to hear what suggestion and recommendation they have for the betterment of our courses.

Therefore, JICA dispatches thirty-odd "follow-up" teams to participating countries every year.

This year JICA has decided to send this team in public Health Technologists Course to Indonesia, Thailand and Philippines.

We shall be grateful if you could extend your kind cooperation to this visiting team during its stay in this country.

Thank you very much.

Yours sincerely,

Director,

Office,
Japan International Cooperation Agency

Follow-up Team for Ex-participants of the Group Training Course in
Public Health Technologist

1. Objectives : The Follow-up Team will Visit Ex-participants' organization and related organs for the purpose of evaluating the results of training course and assessing problems and needs in participants' countries as well as for improving JICA's training programme.
2. Period : Form 4th December, 1989 to 20th December, 1989.
For details, please refer to the tentative schedule attached herewith.
3. Members :
 - a. Mr. Chokei YOSHIDA M.D. , D.P.H.
Director, Okinawa Prefectural Institute of Public Health (OPIPH),
Japan
 - b. Mr. Keisuke FUKUMURA D.V.M. , Ph.D.
Head, Department of Planning & Managment, OPIPH, Japan
 - c. Mr. Minekichi OHYAMA
Head, Department of Physico-Chemistry, OPIPH, Japan
 - d. Mr. Takashi OHKITA
Officer, Training Affairs Division, Okinawa International Centre,
JICA

Cooperation Requested to You

1. We would like to request you to prepare the Questionnaire attached and send it to the following address so that your report may reach us before or on our arrival.
2. We would like to visit several organizations in your country according to the schedule.
The staff of JICA Office in your country will make the appointment for our official visit.
The detail information of our visit will be informed to you directly or through your superior.

MAIL ADDRESS OF JICA OFFICE

(JICA INDONESIA OFFICE)

J.I.M.H. Thamrin 59, Jakarta

(JICA THAILAND OFFICE)

1674/1 New Petchburi Road, Bangkok 10310

(JICA PHILIPPINES OFFICE)

P.O. Box 1229, Makati Central Post Office, Makati, Metro Manila

Tentative Schedule of the follow-up team for Ex-participants of
Public Health Technologist Course, 1989 by JICA

1. Dec. 4 (Mon) From Tokyo (11:00) to Jakarta (16:00) by GA873
2. 5 (Tue) Courtesy call to the authorities concerned
Visit to the Dep. of Medical Entomology
3. 6 (Wed) Visit to CDC and other
4. 7 (Thu) Visit to the Drugs & Food Control Office
Meeting with a ex-participants from Bundung
Friendship-Party with all of Indonesian ex-participants
5. 8 (Fri) From Jakarta (11:55) to Denpasar (14:40) by GA973
Visit to CDC Bali
6. 9 (Sat) From Denpasar (16:00) to Jakarta (16:45) by GA899
7. 10 (Sun) From Jakarta (17:20) to Bangkok (21:50) by TG414
8. 11 (Mon) Courtesy call to the authorities concerned
Visit to the Dep. of Medical Science
Visit to the Dep. of Communicable Disease Control
9. 12 (Tue) Visit to the Dep. of Food & Drug
Meeting with ex-participants from Khon Kaen and Phrae
Friendship-Party with all of Thailand ex-participants
10. 13 (Wed) From Bangkok (12:00) to Chiangmai (13:05) by TG104
Visit to the Zonal TB Center
11. 14 (Thu) From Chiangmai (09:20) to Bangkok (10:25) by TG101
12. 15 (Fri) From Bangkok (10:40) to Manila (14:45) by TG620
Courtesy call to the authorities concerned
13. 16 (Sat) Visit to the Central Luzon Regional Hospital
14. 17 (Sun)
15. 18 (Mon) Visit to the Bureau of Research & Laboratories
Visit to the Caloocan Health Department
16. 19 (Tue) Visit to the Makati Health Department
Friendship-Party with all of Philippines ex-participants
17. 20 (Wed) From Manila (15:35) to Osaka (19:55) by TG620

MEMBERS OF FOLLOW-UP TEAM ON PUBLIC
HEALTH TECHNOLOGISTS COURSE

Leader :

Mr. Chokei YOSHIDA M.D. , D.P.H.

Director, Okinawa Prefectural Institute of Public Health
(OPIPH), Japan

Member :

Mr. Keisuke FUKUMURA D.V.M. , Ph.D.

Head, Department of Planning & Management, OPIPH,
Japan

Member :

Mr. Minekichi OHYAMA

Head, Department of Physico-Chemistry, OPIPH, Japan

Member :

Mr. Takashi OHKITA

Officer, Training Affairs Division, Okinawa International
Centre (OIC), JICA

Questionnaire

To : Ex-participants of the course on Public Health Technologist

Please reply to the following questions, in order to make improvements in the programmes for the course, your frank opinions and suggestions would be appreciated.

(Please write in block letters or type.)

I. General questions

1. Full name (Please underline your Surname)

2. Date of birth : 19 _____ , Month _____ , Day _____

3. Sex : M/F

4. Home address : _____

5. Year of your participation : 19 _____

6. Occupation

(1) Your employment record after you participated in the course.

Period	Position	Organization (In full name)
From To		
From To		
From To		
From To Present		

(2) Please describe your present job.

(3) Address of your present organization.

(4) Please draw a diagram of the structure of your organization and indicate the section to which you belong.

II. Question on the contents of the course.

Please circle the appropriate number for each item.

1. Did you read General Information thoroughly so that you had understood the content and objectives of the course before you came to Japan?

not at all 1 2 3 4 5 very well

2. Duration too short 1 2 3 4 5 too long

3. Course level too low 1 2 3 4 5 too high

4. Number of participants too few 1 2 3 4 5 too many

5. How well did the course cover the topics you had expected?

not at all 1 2 3 4 5 fully

6. Course management very poor 1 2 3 4 5 very good

7. Time allocation

(1) Lecture too little 1 2 3 4 5 too much

(2) Discussion too little 1 2 3 4 5 too much

(3) Indoor practice too little 1 2 3 4 5 too much

(4) Field practice too little 1 2 3 4 5 too much

(5) Observation too little 1 2 3 4 5 too much

8. Relevancy between the knowledge you obtained Japan and your work

irrelevant 1 2 3 4 5 relevant

If irrelevant, please describe the reason.

9. Facilities and accommodation

very poor 1 2 3 4 5 very good

10. While participating in the training course, did you have any difficulties?

Yes No

If "Yes", please describe.

11. How understandable were the course lectures for you?
very difficult 1 2 3 4 5 very understandable

12. Have the knowledge and techniques that you learned in the course been useful for your present job?
not at all 1 2 3 4 5 very useful

In what aspects they have been most useful (or not), please describe.

13. What other subject do you think should have been included in your course?

14. Is your mechanical analytic skill acquired in the training course fully utilized after you returned to your country?

15. If you have any problems in carrying out your daily job at present, please describe them.

16. Please give your opinions or comments, if any.

III. Question on the Japanese course you took prior to the professional training course.

1. How do you feel about the level of the Japanese course you took?

very easy 1 2 3 4 5 very difficult

2. How do you feel about the duration of the Japanese course you took?

too short 1 2 3 4 5 too long

3. During your stay in Japan, how often did you need to use Japanese

not at all 1 2 3 4 5 very often

4. How were you satisfied with your ability to communicate in Japanese?

not at all 1 2 3 4 5 very satisfied

5. During the practice, how much did you benefit from what you had learned in the Japanese course?

not at all 1 2 3 4 5 a great deal

6. Is it necessary for you to have the knowledge of Japanese language at present?

Yes No

7. Are you planning to continue studying or already continuing to study the Japanese language?

Yes No

8. Please give your opinions or comments, if any.

IV. Other questions

1. Since returning to your country, have you had any opportunity to be informed of current progress in public health in Japan?

Yes No

If "Yes", please summarize briefly what you have heard.

2. Since returning to your country, have you had any contact with Japanese organization or agencies?

Yes No

If "Yes", please circle any of the following you have had contact with

Embassy of Japan JICA office JICA experts

Okinawa International Centre

Okinawa Prefectural Institute of Public Health

Others :

3. Since returning to your country, have you had any contact with colleagues in your course?

Yes No

4. Since returning to your country, have you had any contact with the colleagues in your country who had taken part in the Group Training Course in Japan?

Yes No

Thank you very much for your cooperation

5. 各国訪問機関宛英文所見 (一例)



OKINAWA INTERNATIONAL CENTRE (OIC)
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)
No. 1143-1 Maeda, Urasoo-shi, Okinawa-ken
〒901-21 JAPAN

January 10, 1990

Dr. Arwati Soepant
Chief of the Secretariat
CDC, Ministry of Health,
Republic of Indonesia

Dear Sir:

re: GENERAL IMPRESSION OF FOLLOW-UP SURVEY OF JICA EX-PARTICIPANTS
OF GROUP TRAINING COURSE ON PUBLIC HEALTH TECHNOLOGISTS

The team visited Indonesia from December 5 to December 10 for 6 days. Although the period the team stayed in Indonesia was very limited, thanks to your kind cooperation, the team was able to achieve its goals.

The team was deeply impressed to see how actively ex-participants have been engaged in their work since their return from Japan. Moreover, exchanging views and opinions not only with ex-participants but also with people from your organization was a valuable occasion for the team.

We will take into consideration the comments and suggestions obtained in the series of discussions for the improvement of the course.

After returning to Japan, we will make recommendations for the improvement of the course, so that participants in the future can benefit more from the course.

Finally, we sincerely request for the continuous support and cooperation with us, which is also vital of the betterment of the course.

With Best Regards.

Dr. CHOKEL Yoshida
Team Leader of
the Follow-up Team for
Public Health Technologists Course,
Director, Okinawa Prefectural
Institute of Public Health

Enclosure

COMMENTS AND SUGGESTIONS RECEIVED FROM EX-PARTICIPANT :

- 1) The course of public health group training covers fundamental technological aspects in the field of public health. In this connection, the course makes participants have broader view and suggests them various ways and means how to approach public health problems.
- 2) More opportunities of operating, maintaining the analytical instruments is advised to be included in the course especially in the subcourse of environmental pollution.
- 3) It is advisable for JICA to develop a new system of support in which every participants on the way back home carry the minimum specific equipment essential for sustaining their up-lifted level of technology.
- 4) It is advisable for the lecturers of the course to deliver the lectures more from the view point of developing countries.
- 5) It is advisable for JICA to give more detailed orientations to those newly appointed participants before going to Japan, using video on training in Japan, guide books of the training institute, etc.
- 6) Generally speaking, knowledge and techniques acquired through the course have been effectively applied to their respective career after returning to Indonesia, although there is lack of new and effective equipments and technique of maintenance in some cases.

(送付先)

[インドネシア]

Dr. Arwati Soepant

Dr. Slamet Soesilo

[タイ]

Dr. Teera Ramasoota

Director-General, Food and Drug Administration (面会せず)

Director-General, Department of Medical Science (面会せず)

Dr. Chawalti Natpratan

Chief Medical Officer, Phrae Medical Health Office (面会せず)

[フィリピン]

Dr. Tomas Maramba Jr.

Dr. M.A.Loudes B. Salud

Dr. Guillermo L. Papa

Dr. Aurora Villarosa

以上11機関

(注) 内容は国名・宛先等以外、全て共通である。

